

## 平成 26 (2014) 年夏の夜間開園時の夜開性・夜香性植物とライトアップした植物について

磯部実・高井敦雄・西澤永恵・内田喜章、  
濱谷修一・井上尚子

### はじめに

平成 26 年の夏の花と光のページェント（夜間開園）は 9 月 13 日、14 日、20 日、21 日、27 日、28 日の 6 日開催した。期間中に園内で開花または芳香を入園者に楽しんでもらえた夜開性植物とライトアップした植物について記録する（表 1、2、写真 1～10 参照）。夜咲植物の中では特に人気があり、ここ数年展示のできなかったゲッカビジンが期間中に開花した。一方昨年までは展示できたフウランやユウスゲなどは開花終了して展示できなかった。

また、4 月に 2 回と 11 月下旬～12 月に 9 回夜間開園を行ったが、4 月には夜咲き熱帯スイレン、12 月には夜咲き熱帯スイレンとオニバスの花が開花した。

### 開花状況

概要については表 1、2 のとおりである。

サガリバナは地植えの個体（樹高 4 m）が 8 月上旬より開花を始め（写真 1）、8 月中旬には最盛期になり 9 月には開花数は少なくなった。これまでも夜間開園が始まる前の 8 月上旬にはほとんど咲き終わっていたので、前年の剪定は例年よりさらに遅い 1 月に行ったが遅らすことはできなかった。

平成 26 年の開花率（花芽をつけた新梢の割合）は例年通りであった。ほぼ終日、南面に植栽しているヤシの陰になることや上部に設置している雨除けシートなどによる日射量の減少による影響は少なからずあると思われる。その他、正面池そばの自然実生個体（樹高約 2.5 m）や 20 号コンテナ植え個体 1 本（樹高約 2 m）や大温室中央の丸池の 20 号コンテナ植え個体 1 本は、充実枝の捻枝や下方誘引を行ったところそれぞれに開花率が良く、9 月からはこれらの開花状況を展示することができ（写真 1）、夜間開園終了後の 10 月下旬まで開花した。

イランイランノキは良好に開花し、夜間開園時には展示することができ、芳香を楽しんでもらえた。イエライシャンは、9 月に花の数が少なくなり、下旬にはなくなった。ヤコウボクは 8

月中旬まで開花していたが下旬には開花中断したため 9 月上旬には展示できなかったが、9 月中旬から多く開花したので、入園者には強い香りを楽しんでもらえた（写真 2）。ヤコウタケ導入栽培しなかったため本年は展示しなかった。

ゲッカビジンは期間最後の土日に開花した。大温室水草コーナートンネルの入り口上部に植栽している大株の個体が 20～30 輪蕾をつけ土曜日の 8 時頃に 3 輪、日曜日の同時刻に 5 輪開花した（写真 3）。またビニールハウスで栽培している鉢植えも蕾をつけていたので数日前から開花時間を夕方から咲くように早めるため暗室（ボイラー室横の電気室）で開花調節を行い 1 日遅れて開花を始めたが月、火曜日の 3 時ころから展示することができ、日中の入園者にも観賞してもらうことができた。

夜咲き熱帯スイレンは、順調に生育し、多くの花が咲き、日中でも曇った日は午前中にも花を見ることができた（写真 4）。オオオニバス類はオオオニバス、パラグアイオニバス、ロングウッドオオオニバスのいずれかが開花した（写真 5）。特に 1 日目の花が開花する日は、蕾が夕方から強い香りを発した。

例年の夜間開園期間中に展示していた遅咲き系のフウランは 8 月上旬中旬に開花終了してしまい、展示できなかった。

カスケードのオシロイバナ、花の進化園のヨルガオは順調に開花した（写真 6）。タマノカンザシは前半には開花したが後半には開花終了した。ツキミソウはほぼ期間中開花した（写真 7）。

その他夜の植物を入園者に楽しんでもらうため、それぞれの展示エリアにおいて重要な種類についてはそれぞれの照明によるライトアップで夜の開花状況を展示した（表 2、写真 8、9、10）。

### 課題と対策

サガリバナは個体が大きく成長したことによって開花数が増え、多くの花を見ることができるようになったが、本年までは開花盛期が 8 月になるため、開花盛期が夜間開園時期の 9 月になるように冬の剪定時期をさらに遅らす工夫や、周辺植物の剪定による日射量確保による開花率の向上、鉢植えなどの若い個体は捻枝など花芽分化促進による開花数の増大が必要である。

夜咲き熱帯スイレンは水温を適切に保てば、ほぼ 1 年中花を咲かせることが出来、いずれの時期の夜間開園でも展示効果が高く引き続いて栽培展示していく必要がある。

オオオニバス類はいずれも大株に成長させることができ、多くの花を咲かせることができた。8月に開催するオオオニバス試乗体験会でも活用する主要な植物で、大きく育てることが重要課題である。特に冬の夜間開園でも花を展示するために本年は池の清掃と植え替えを12月から5月に変更し展示株の維持に努めたため、冬の夜間開園時には花が咲き入園者には好評であった。

ヤコウボク、イランイランノキについては適正な剪定とカイガラムシなどの害虫の徹底防除を行うことにより開花を確実なものにすることができると考える。イエライシヤンは以前開花していた鉢植えの株がここ数年花芽をつけずにおり、購入株の展示しているため、栽培株の確実な花芽誘導の課題がある。

ゲッカビジンは開花が不安定であり、安定的に開花させるためには冷房室などで花芽分化や花芽の発達をコントロールする方法を検討する必要がある。タマノカンザシなどは照明の強度や説明表示方法の工夫によって香りの演出を行い、さらに入園者わかりやすく効果的に行う必要がある。今年展示できなかったヒョウタン、ヘビウリ、ユウスゲなどは花や果実が美しく人気がある夜咲きの植物なので展示数増や、更なる効果的な展示方法を検討する必要がある。



写真3 ゲッカビジンを見る入園者



写真1 開花したサガリバナのライトアップ



写真4 夜咲き熱帯スイレン



写真2 たくさんの花をつけたヤコウボク



写真5 オオオニバス類の開花



写真6 花の進化園のヨルガオ



写真9 大温室東南アジアランコーナーのライトアップ



写真7 大温室前広場に展示した鉢植のツキミノソウ



写真10 大温室のアリストロキアのライトアップ



写真8 ヤシやアンズリウムなど大温室入り口のライトアップ

表1 平成26(2014)年夏の夜間開園の夜開性、夜香性植物開花状況

	9月13日	9月14日	9月20日	9月21日	9月27日	9月28日	展示植栽場所	主な生育開花状況その他
サガリバナ	◎	◎	◎	◎	○	○	大温室	7月下旬～8月上旬に最盛期になり9月は少なかった
ゲッカビジン	×	×	×	×	◎3輪	◎5輪	同上	9月下旬に最盛期。鉢植えは開花調整し日中午後から開花させる
ヤコウボク	×	×	◎	◎	◎	◎	同上	9月中下旬に最盛期
イエライシャン	○	○	○	○	×	×	同上	8月最盛期。購入鉢植えの展示
イランイランノキ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	同上	順調に開花した
夜咲き熱帯スイレン	◎3輪	◎3輪	◎3輪	◎3輪	◎2輪	◎2輪	熱帯スイレン温室	順調に開花した
オオオニバス類※	◎ア、バ	◎ア、ロ	◎バ、ロ	◎バ、ロ	◎ア、ロ	◎ア、ロ	同上	順調に開花した
オシロイバナ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	カスケード	同上
ヨルガオ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	花の進化園	同上
タマノカンザシ	○	○	×	×	×	×	花の進化園	9月前半のみ開花
ツキミソウ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	大温室前広場	順調に開花した

◎：非常に良好な状態で展示、○：良好、×：展示できず

※ア：アマゾンカ種、バ：パラグアイ種、ロ：ロングウッド種

表2 平成26(2014)年夏の夜間開園時にライトアップした主な植物(夜開性、夜香性植物以外)

展示植栽場所	植物名	備考その他詳細事項
小花壇横	ツゲの動物トピアリー	
カスケード	巨大ハンギングバスケット	
展資料館前	イリオモテアサガオの緑のカーテン	長さ50m、高さ9m
大温室前広場	キッチンガーデンの植物	ナス、トマトなど
大温室前花壇	カンナ、巨大カボチャ	アトランティック・ジャイアント
大温室	ヤシ類、アンズリウム等入口池周辺	(写真8)
	バナナ類果実と花	サンジャクバナナ、タネアリバナナ、ビジンショウなど
	タビビトノキ、ヘリコニア(花)	
	ヘゴ	ヘゴ、ヒカゲヘゴ
	ラン類	コチョウラン、パフィオ、カトレヤ、オンシなど(写真9)
	パパイヤ、パイナップル、カカオなど熱帯果実	
	アリストロキア花	(写真10)
スイレン温室	ネベンテス他	室内照明と併用
フクシア温室	フクシア	室内照明と併用
	野生ラン	カトレヤ・ラビアタほか
サボテン温室	キンシャチ、リュウジンボクなど	室内照明と併用
	ザミア類	
展示温室	薬用植物展	室内照明使用
ベゴニア温室	球根ベゴニア、木立ベゴニア他	室内照明使用
ベゴニア温室周辺	ベルチナバナナ	
花の進化園	ノゲイトウ	
	ランタナ	
	ツノゴマ	
	アワ	
	リコリス(キツネノカミソリ、ナツズイセン)	